

家慶記

大正九年十月

二十一日

特別

14

1919

645

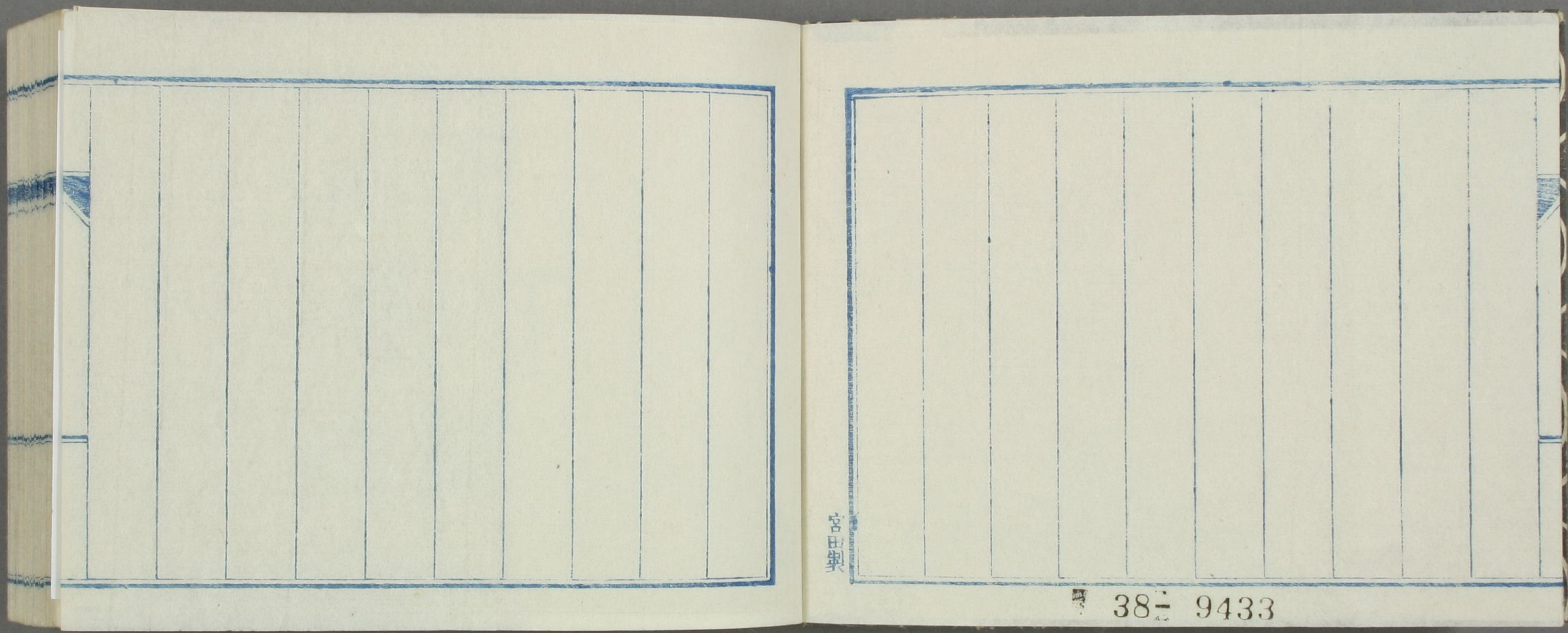


家慶記

大正九年十月

十二月に至る

次女久再縁二付諸控



宮田製

38-9433

以下  
4丁  
白紙

媒灼人こころ

矢吹ししむか意こ

媒灼人を専ら由早苗保

士支婦し秘頼むんと

のこころ高ち七同意

し双方もし頼合ん

高ち七同意を得比

り

高ち七同意は此の文二

即ちぬし親類格

妻を式に懐き去る勿論  
 他は轉旋する位乾  
 ころふも信を得比  
 リ曰はる夫婦之久初  
 縁の折媒物なきし  
 因縁ありて四の縁  
 復々就る事當初よ  
 り種々世説を愛け  
 ざるはくも此の位乾  
 をありて也

宮田製

大正九年十一月一日

結納取為終り

此の午後二時双方互に  
 結納品を元付する  
 結納品は高方より  
 袴代り四匁第一  
 甚末廣一疋他目  
 銀糸の親類書添  
 先方より帯代り内  
 他よりへり高方と同

しあふらんと多賀男  
士を使こきふ、双方共  
申合使に祝儀金三  
円也す  
右より歎末と媒酌人  
高田早苗博士吉由  
と報す

十一月十七日

久吹の書よりしるす

宮田製

刻久光あめを付の  
久吹の家を訪ふに  
松の御堂を多く有  
坂夫人も同席し初め  
五人の子女を見、結  
婚前交際のひきも  
訪問也、子女は茶子  
玩具等遊び用の品  
詰めて推し出す

結婚式 葬、前後の事

直接矢吹家と協議

左の如く定む

式と十二月七日午後二

時日比谷太神宮に於

て奉行の事

午後一時半より二回の

所、巻集こころ

南方親婦を伴ひ

自動車に乗る日

宮田製



方三三亭の白友人を同  
伴ししり

先方親族の内く五  
人の子女を加く式場  
に候しり

式三時を以て終る  
豫定しり

式後市士見町高  
士見軒に別り五時  
開宴の七時宴あり

高田製

撤すり

此宴会を以て双方親  
族のみ合会しり

宴会後新印紙の  
き七時の合の既  
車より新婿族の  
と進上り

但し行先が根  
階在五の洞と縁  
定

旅装高士見物指  
込可くも

為物

式の前即午

前十時自動車

あり運搬

為物と共にあり

くも吹家くも

す難節をさ

兼：日家親族

宮田製

ハ新兼：子也

い出産物係せん

運搬

多賀昌士を使と

一二人の僕を添え

をす

有家共再縁

親族の披露を

為さるる事

山頂西洋風に倣ひ

新印新婦指輪の  
交換を式に合わせる向  
七色のいんを磨が  
し新印をさしはぬ  
こ指輪を磨つあること  
お似し式おのり

十二月一日

長崎高田夫人来訪式  
ありこ竹花殿打念をみ  
す

宮田製

十二月二日

午前九時寸別項  
のあり自動車  
着物を久吹家  
足心をはく満

同日午後

久吹家・新婦  
左の贈り物列  
一巾袖 一重  
一コート 一投

一毛の襟巻

一色紫指輪

使召くまをとりて祝儀

せりす

七日

朝来降雪

■前多賀の湯女を使と  
て先づ家主人系に四人の

宮田製

姉妹に及物各一連物

せりす

外に髪飾をさき下

男は女の執りて祝儀

包既に次つてあり

北寄りと新物新袴

旅の終り先づ家

入る早まむ回家に

於て新う四重く事

也新物出をるるら

初也

使者先方より祝儀

三回を交けしこと

午後一時

混田文二郎并夫人

迎へに来り

自動車二基至り

余も同乗日比谷

大神宮に到り

宮田製

式ハ二時より本行

三時ニ終り

去場者

媒妁

市田博士夫妻

大吹家

親族十四名

北内小兒五名

高方

五人并品物

式後

一同直に富士見町

市士見軒に當

合場と別る

矢吹家の親族を式に

臨ませり一々の四五名

来りしもの方々を副子即

事名、矢吹家先代し

友入山内將軍も其時

五時と到り

宮田興

節興を始と

おきんの後鏡

あり

終つて室の合に移る

高田侍士二席上

祝籠あり

評と山内將軍

祝辭を陳べ

室の傍

新郎新婦新婚

流竹の余(三上)の  
行先 呆根  
昆田夫婦 傳車  
所迄見送る

八の

天吹家らと使高馬  
高方家族四人  
(家長三人 嗣子一人)  
各及物七言及贈る

宮田製

下田方下如七人、  
包物開十斗各記  
因り、  
昆田夫人来記

九の

昆田を海の上 謝表  
をまゐる  
別項の物を贈る、  
此印紙の画柄は新婿

越前の事十一日物原  
 備し昂轉地り以て  
 十日余付漆川田原  
 二行き十一日帰京  
 三折停在市場に於  
 乙女入三物系せん  
 上するは八日一因車  
 一七物一  
 車馬  
 傳車坊に於て全  
 一家に備ひ入る也

宮田製

五婦出ひ居り  
 此ういふを世の力と云  
 方、老し、はゆし  
 備手助をたましめん  
 とし、海谷氏に頼む  
 備ひ入るもの也

十二月十四日

謝物を高くして高田  
 夫婦を訪ひ、妹物の  
 号を謝す、謝物別



頃の如し

午後四時頃吹去物  
泊面松亭社或能  
とて

十八日午前内子日記

とて

盤印 絹紙

抽 持

送有控

一 草子司 二

一 長茂知 一

一 用草子司 一

一 小草子司 一

一 理多 一

一 衣折 一

一 針司 一

一 風名安包 二

一 雜具以下駄目 二

以上

外：

旋盤折筆範

柳全利

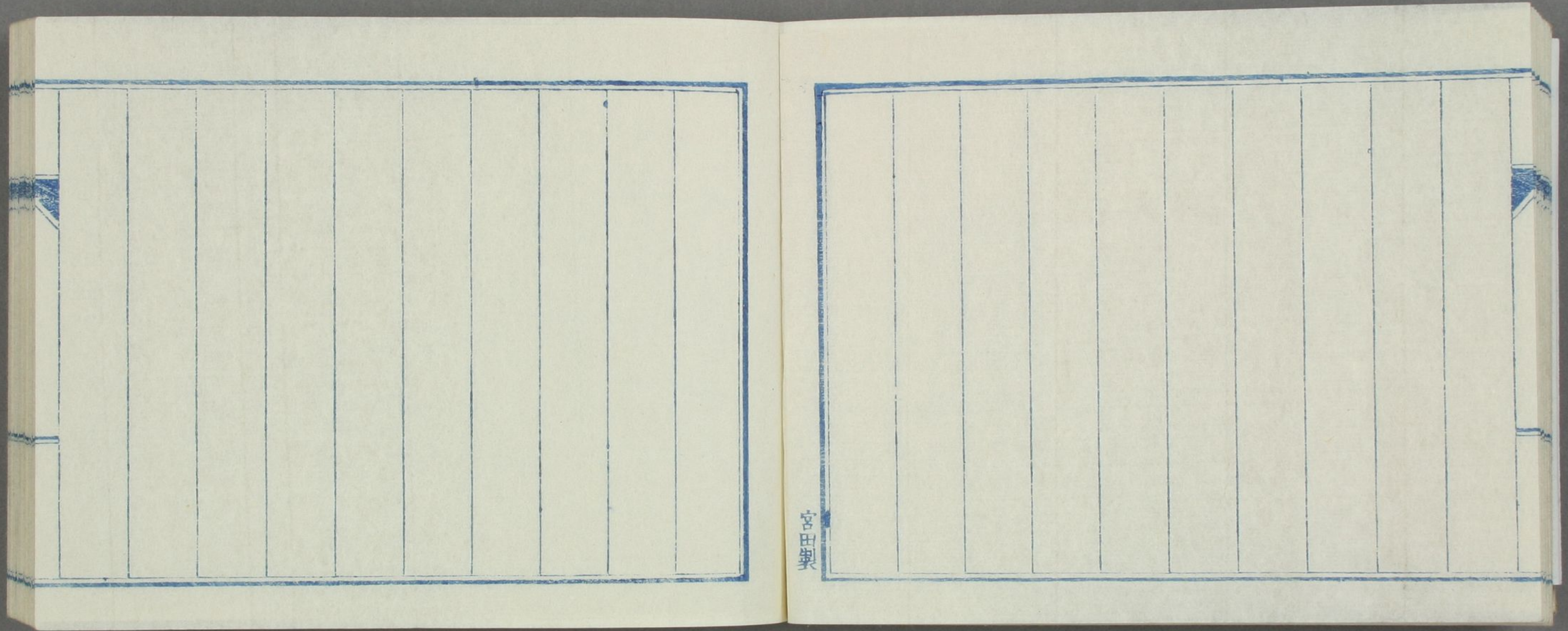
此二點五折物

旋刀目之為至

く

机之右と左に

送るもの



宮田樂

矢吹家當主

牛込区白銀町二十八

正五位男爵

貴族院議員

矢吹省三

明治十六年

七月廿三日

生

故陸軍中將矢吹秀一三

男

明治四十二年家督相續

龍舟

明治四十年帝皇太子

法科 得業

大正二年貴族院議員之勅

送

先妻あや子伯母東久

世通敵ノ味通禱ノ女也

故アリテ離縁

矢吹家親類書

一長男 矢吹秀武

一次男 日秀邦

一長女 美枝子

一次女 二三子

一三女 智江子

一三男 禎男

府下西栗鴨町五〇八

一姉 三倉辻明俊妻

倉辻幹子

府下雜司谷三二

一婦 亡子行岡崎國良

岡崎石子

大政府下住吉村帝塚山

一妹 志賀信光四二二の

志賀貞子

車馬府下中野町十番政

一妹 男爵有政勉の

有政幸代

深川三重岸町九九

宮田集

一父方叔父 石倉順郎

日下橋本町二百十七

一母方叔父 杉田彰一郎

牛込市各河田町九

一母方叔母 石澤春子

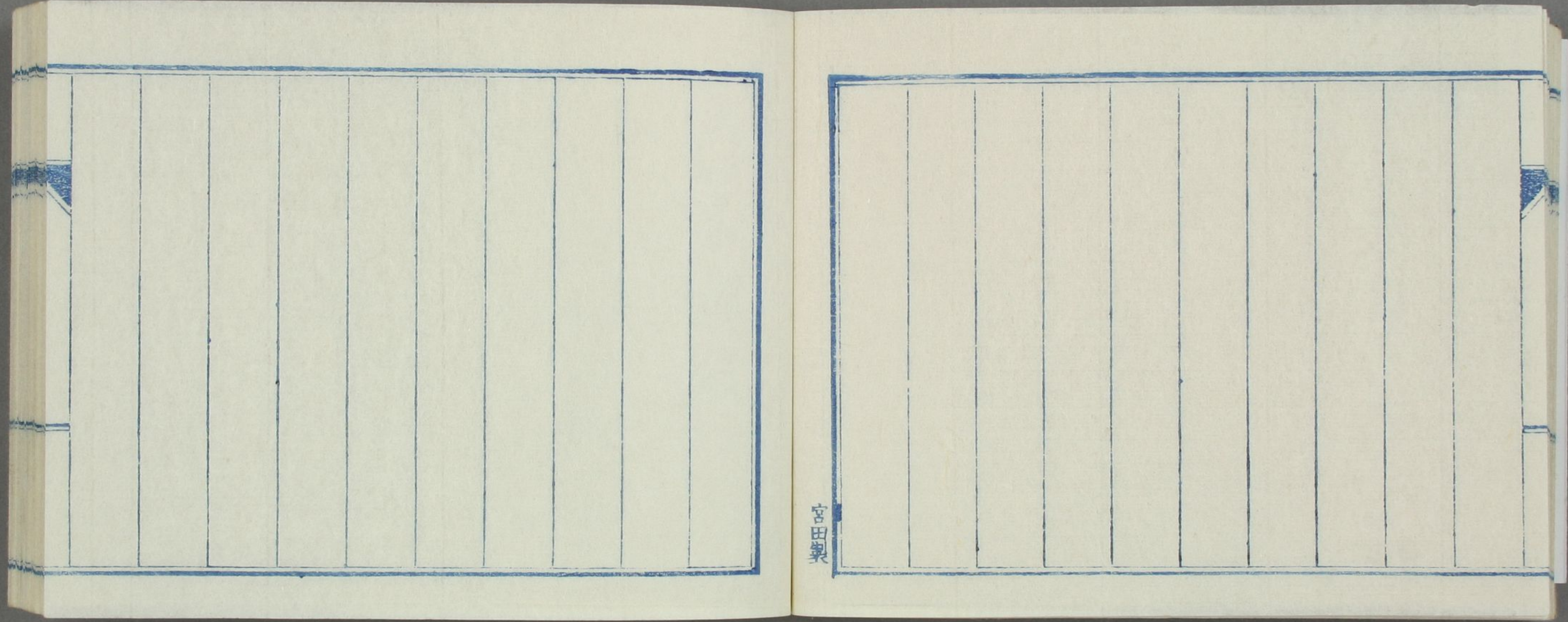
芝区白金台里町九六

一母方叔母 野口銚子

以上

宮田集





宮田製

久次家親族

杉田敬一  
白千代子

石倉順郎  
白七子

石澤新  
白春子

野口銚子

倉辻幹子

岡崎石子

志賀信光  
百直子

宮田製

有政勉  
口幸代

以上八家

高方より久吹くきし  
親類玉左の介し

字家

市山徳厚

丹美原平

真山桂次郎

真山信城

栗林貞吉

和泉自平

中野欽次

宮田製

飯村俊二

其後追加分左の介し

昂

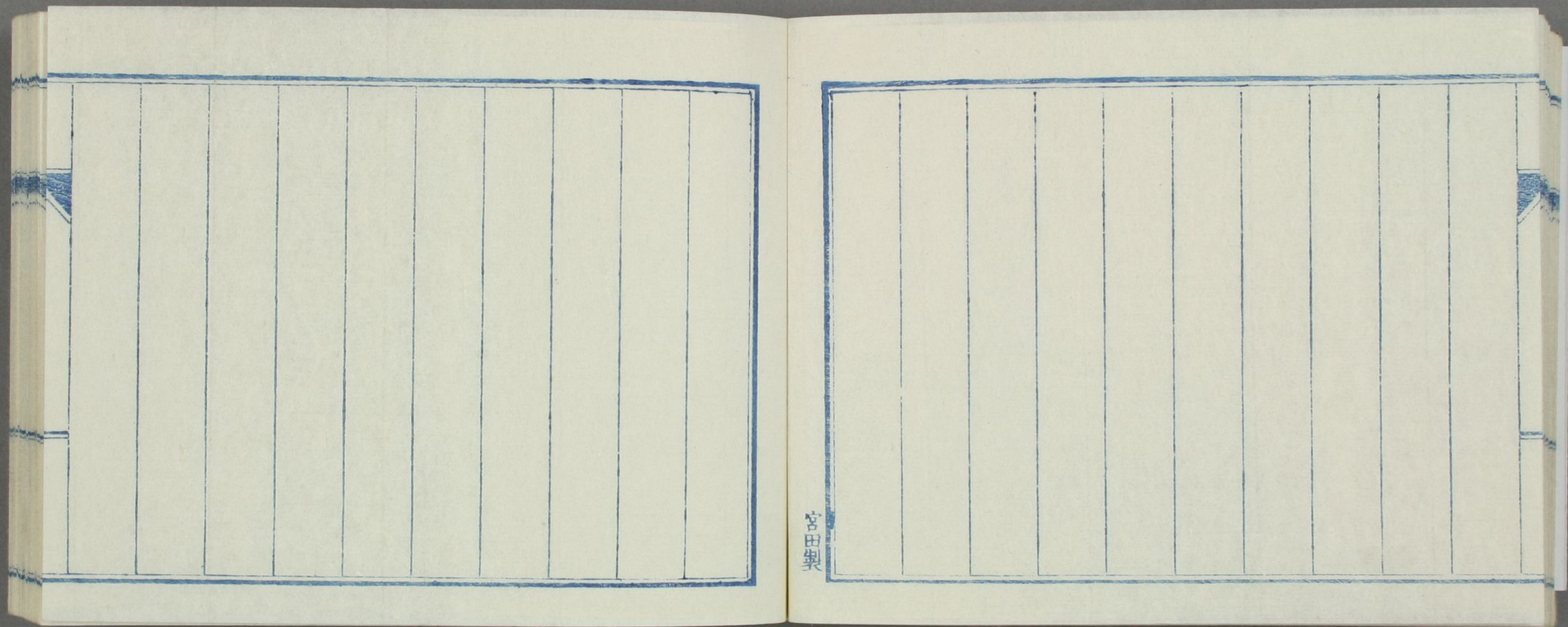
みの

喜代四

昆田文三郎

夫由

以上



宮田製

以下  
17丁  
白紙

嫁具送遠控

十二月六日午前九

時半

皆禮用自動車

老台之流靴

筆筒

二掉

用筆筒

一掉

口

一掉

長持

一

琴一面

鏡 壹

衣 桁

針 箱

爪 名 包 二個

雜 具 二

以上十三點



器具辨入格

全七田五式

扇子

全八十五式

梳

全一四十八式

梳

全九十五式

茶碗

全四十五式

湯吞

全七十式

白粉袋

全七十五式

籠巾

全七十四式

羽織

至九十九日

大吟納

至五十三日

秩父  
のいん  
夜更

至沙田五十九日

天我織  
綿子

至沙田五十三日

琴弓の袋

至拾八日也

統納品

至三日

統納使  
者被儀

至七日

車夫二人

至十九日

羽二色儀  
袴廻し

宮田製

至六日五十九日

あやしめ

至七十四日

十紋  
あやしめ

至る十日

世帯

至十九日八十九日

全河  
袴廻し

至七日

四二枚

至沙田四日

腰巻

至四日八十五日

白半襟

至七日三十一日

深黄  
小襟

至三日三十一日

白  
帯揚

至七十四八十五式 白膠帶

至五十三式 白帶

至七十四三式 帶

至四十二式 金時計

至五十四七十式 九八二

至二十九式 相本

至二十六式 衣

至四十四式 四

至五式 美

至十式 吹

宮田製

至四十五式 今

至二四七十式 足

至四三十三式 袖

至四式 手

至十二四五十式 二枚皮

至十式 代

至十式 束

至五十四式 襪

至廿四二十五

鏡之什切

至廿四廿六

柄付鏡

至廿五廿七

油反

至廿六廿八

白粉

至廿七廿九

紙入

至四百六十二

三十三

馬崎屋外  
美崎屋外

宮田製

別

至八四七

舌履

至九十五

鼻緒

至九廿四

鏡台

至九廿五

柳

至四廿六

龍の用  
化粧器

至五廿七

取の袋

至十三廿八

白汁

至三廿九

鏡入

至七十丸

夕十人

至三田五丸

手袋

八田

文吹子  
供

六田

赤年  
二

三十田

久吹家

祝儀  
盤子代

至七三田三丸

玩日

至四田五丸

物合

至三田三丸

カマ口

至三田五丸

口  
口

宮田製

七三田十丸

赤  
あひき

七三田十丸

ハシケ

七三田十丸

柳二

四田十丸

カマ口

至五拾丸

久

至十田五丸

高  
高

高  
高

行  
行

至二十田十丸

大  
大

口  
口

十沙由

荷運心

七沙由七美

祝物送給

六沙由三十美

十色料

三吹支由  
來訪心  
代印料也

祝儀本

金十沙由也

先方下少五人  
下男一人之祝  
儀

金五沙由

先方家  
祝儀

金三沙由

祝儀  
持卷  
衣料  
持卷  
祝儀

金一沙由

自郵  
運料  
手

三人外二人  
祝儀兼酒代  
右為相送  
リ五分

金五匁

内の子供  
祝儀

金五匁

内の子供  
祝儀

金八匁

夫田不二  
永家つ什料  
日祝儀

金五匁

金五匁

高下兄弟  
リ自動車  
祝儀

宮田製

金三匁

高下兄弟  
行人車  
祝儀

金三匁

先方と  
家族と  
相打と  
高下兄弟  
祝儀

金七十二匁

近親

八十二匁

花押

金五匁

夫吹  
高下兄弟  
附送  
高下兄弟

至廿四

西洋菓子

至四十一

被褥地

至五十二

六つ敷

至九十三

おのし

至三十一

昆布

至九十二

神札

至三十一

白の毛

至九十三

白の毛

至廿七

合子

宮田製

至十四

白物車

儀并

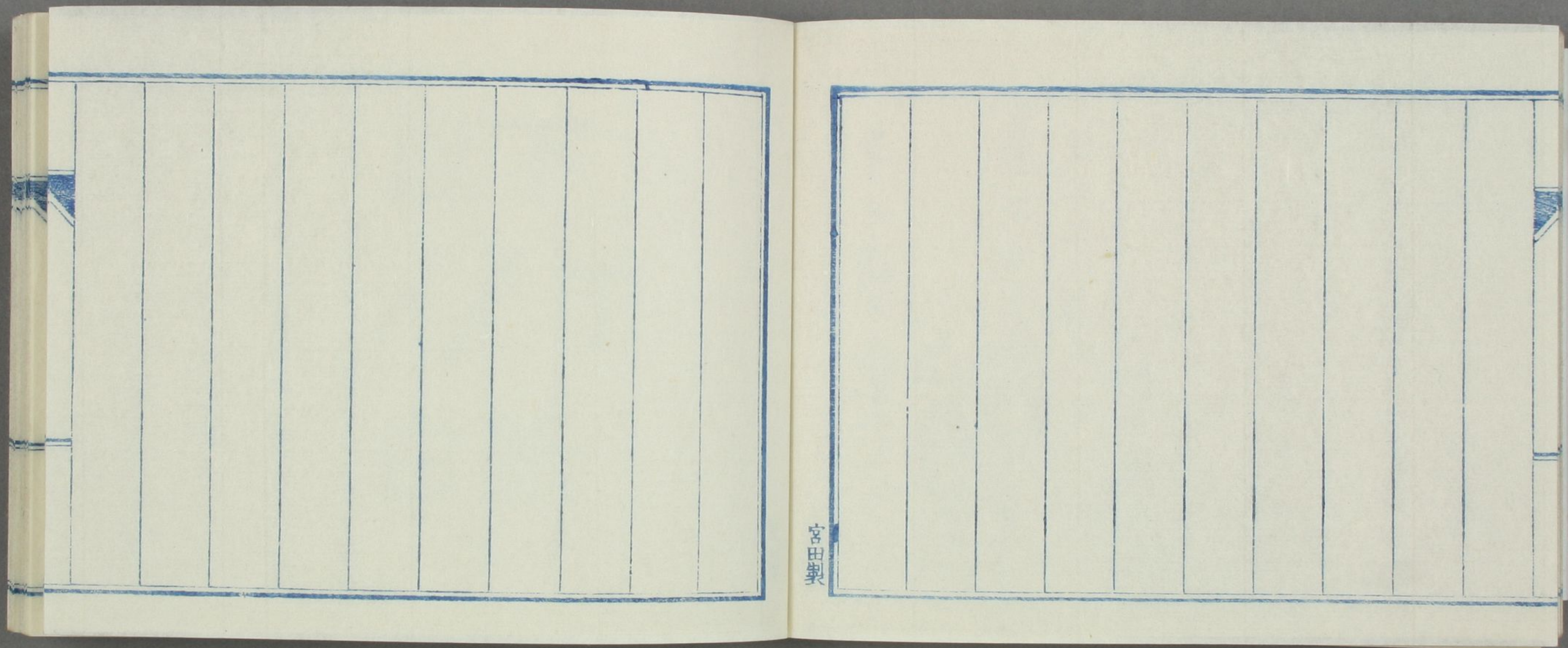
至六十一

紅白綿

至八十四

末廣





宮田製

以下  
// 丁  
白紙

引未祝品控

一 祓行用化粧道具

早川仙子

一 高品券 十日

浅野

一 切年五日

下林貞雄

一帯揚一本

お中

一下駄七言足

支向あさ

一下駄七言足

白足代衣二足

作あすま

一絹肩拵七言杖

宮田製

植休總子

一金紗不紋おめ七言及

日留文二印

一和織赤心地

十の月前反

真綿花成

一絹糸七言函

皇三四五式

仁木清

紅白真綿九 甚付

蓬萊島之甚付

代

高田早苗

紅白絹重衣地

代價北四角

宮田製

文昭協方二回

難印 五回

佑伯持心

ちりめん

あろり

巾着

市島甚代四

難印

全十回

江部源夫

切手五回

天竺山

真像三十五回

下馬 吉造

江部 源夫

十回 難事切手

宮田製

坂口仁一

真崎桂次郎

白鶴

小林堅三

難事切手十回

市島徳厚

女割

巻物

五野柳子

半襟

ハシケキ 一枚

切平五回  
大崎乙平

半襟 玉村

白羽二年幸及丹美原平

半襟 吉田小夏

難節 丑月 関太郎

難節 坂上弘花

紅絹 大江乙亥門

十回 石塚三郎

宮田製

色紙に紅白之綿

末唐人と通つて

祝儀

△ 田代

真珠 穴

和紙

淡色

十代

△ 山家

坂口

△印他こおと深ゆきこと

江部

結綿緋 七々々

賀四五次

返礼と七々の

降十四光る

宮田製

至五十四

出柳子

外

至

田

難印一糸

至三十六

得糸一糸

博の音の家

至九十二

及物

外菓子

日比田夫婦



十二月十日

祝物を寄せられたる

御家へ送付し給

わ色より一切お返し

了

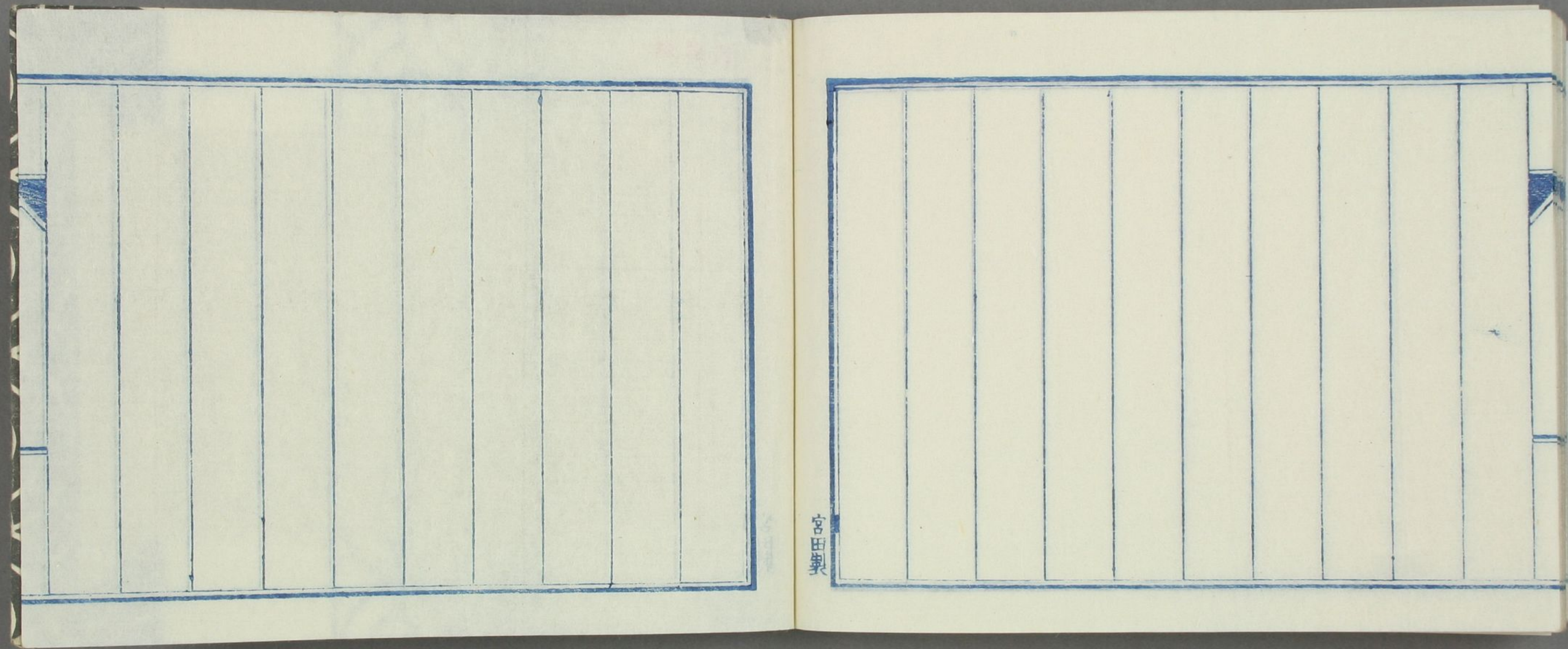


--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

宮田製

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

宮田製



宮田製



